

生活クラブ長野 2030 独自目標「設定根拠」

重要目標	KPI (評価指標)	詳細
1. 食料主権の考え方を基に、食の自給運動をすすめます	①牛乳の利用量：976,800 ℓ (2022 年度比 138%) ②卵の利用量：460,000kg (2022 年度比 137%) ③組合員の生産参加：年/100 人	①2022 年度年間利用量予測：707,135 ℓ (乳牛 88 頭) 組合員数 2 万人で利用率 55%→976,800 ℓ (乳牛 122 頭) ②2022 年度年間利用量予測：336,172.6kg (産鶏 20,374 羽) 組合員数 2 万人で利用率 65%→456,000kg (産鶏 27,872 羽) ③トマト計画的労働参加の継続に加え、ぐるっと長野で労働力不足の農地に対し、季節労働をサポートするしくみを作る
2. 食文化を守り健康で豊かな食生活を推進します	①ビオサポ講座参加者数：年/600 人	①現状→開催 14 回、参加者 173 人 (コロナ影響あり) 各支部で年 1 回は開催をめざす。
3. 資源・環境を大切に暮らすを広げます	①R びん回収率目標：80% ②石けん利用目標：利用人員率 20%	①現状→77.4%。自主回収認定の水準 (80%) を維持する。 ②現状→月/2,700 人、月/5,589 点 組合員数 2 万人で 20%=月/4,000 人、月/8,000 点
4. 脱炭素社会の実現をめざします	①事業所 CO2 排出削減目標：2013 比 40%減 ②配送車両の EV 化：5 台導入 ③省エネ設備への更新 ④自家発電設備の導入：2 か所新設 ⑤木質ペレット燃料の活用目標：年/60 t ⑥生活クラブでんき契約数：1,900 件	①別途事業所目標として決定済み。 ②事業所の CO2 排出削減目標を達成するための個別目標の一つ。 ③自前および関連施設で意識的に進める。 ④本部・伊那センターのソーラーパネル設置 ⑤熱エネ PJ の方針から目標値を算出。 ⑥現状 893 件。県内で作った電力 (野辺山、大白川) を地消できる規模をめざし、毎年スイッチング率 1%の目標を達成する。
5. たすけあいの輪を広げ、ケアの自給圏づくりをすすめます	①エコロ給付率：50% ②見守り協定：10 行政区 ③認知症サポーター：配送職員 100%取得 ④たすけあいワーカーズ創出：5 団体 ⑤共に働く場の創出：県内で 2 か所 ⑥地域機能づくりを支える中間支援組織の形成	①2022 年度実績 31.2%。 ②現状 1 行政区。 ③専従職員と配送ワーカーズを対象に講習参加者を増やす。 ④個配方針に基づきワーカーズづくりをすすめる。ブロック×1 を目標。 ⑤「みんなのかまど」の実践を基に他地域に広げる。 ⑥ワーカーズ連合会の設置
6. 地域コミュニティを再構築し、安心して暮らせる顔の見える地域づくりをめざします	①地域の居場所機能数：8 か所 ②防災講座の開催：年/20 回	①クラブステーションの地域貢献機能として推進することを中心に、その他多様な場面で展開。 ②ライフプラン講座の防災講座を積極展開

<p>7. ジェンダー平等を推進するとともに、多様な働き方を創出します</p>	<p>①様々な分野でのワークズを創出する          ②専門部署・管理部署におけるフレックス制度の導入          ③育児休業および介護休業の取得率：対象者の70%が制度を利用する</p>	<p>①たすけあいワークズだけでなく新しい価値の働く場を多様につくり出す。          ②フレックスが馴染まない職務は除外。          ③女性の働きやすさだけでなく男性も取得をすすめ、家事・育児へ関わりやすい職場を創出する。</p>
<p>8. 持続可能な社会の実現のために、他団体や行政とのパートナーシップを強化します</p>	<p>①ぐるっと長野協議会で行政や識者との連携実態を構築する。</p>	<p>①現状の方針を実現するための手段として、行政や識者との連携構築を重要課題とする。</p>